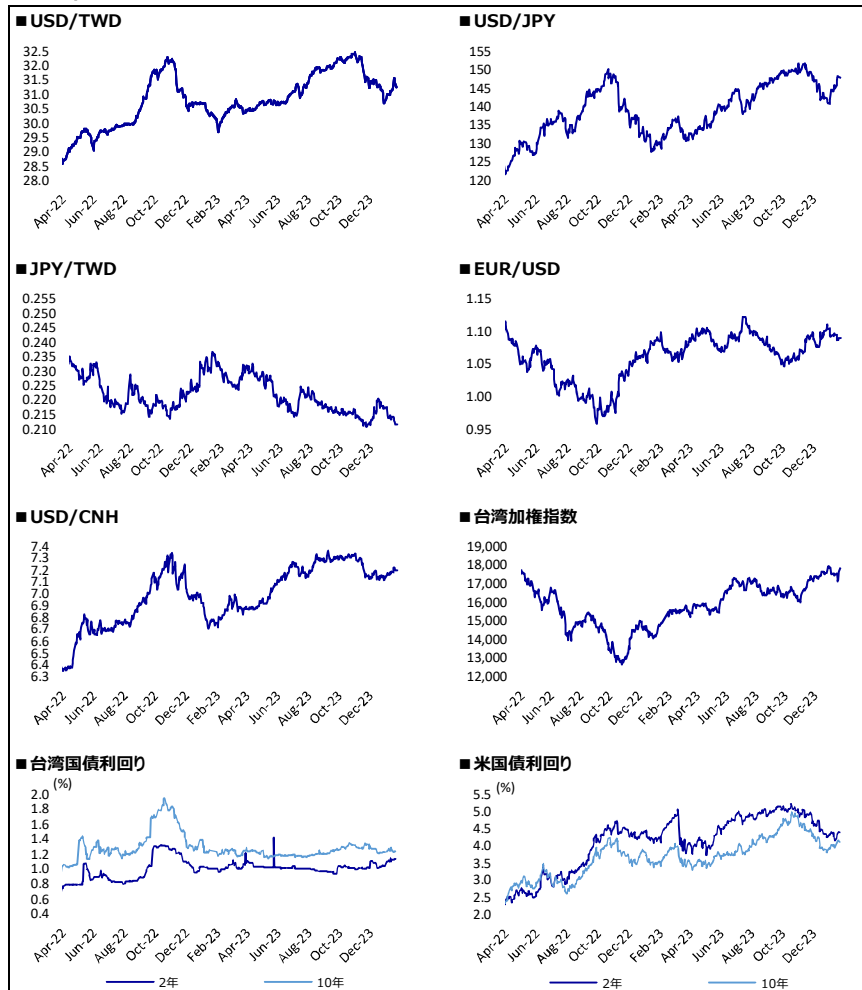


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初1/15は31.130でオープン後、13日の台湾総統選・立法院選で総統、議会がねじれる結果となったことで、外国人投資家による台湾株売りが見られ台湾ドル売りが優勢となり、31.20台まで上昇した。1/16は、米金利が上昇に転じる中、ドル買いが優勢な展開となり31.40近辺まで上昇。1/17は、中国12月不動産価格が前年比で下落していたことを受けてアジア市場全体のリスクセンチメントが悪化する中、台湾ドル売りが優勢となり一時31.625まで上昇した。1/18は、発表された台湾半導体大手企業の四半期決算が市場予想を上回る結果となったことを受けてリスクセンチメントが改善すると、台湾株の下落が一服し台湾ドルが買い戻される展開となり、31.55を挟み揉み合いの推移。1/19は、半導体大手企業から市場の先行きに楽観的な見通しが発表されていたことを受け、外国人投資家による台湾株買い越し額が大幅に増加する展開に。台湾ドル買いが加速し、31.40代前半まで下落した。最終的には前週比1.0%ドル安台湾ドル高の31.440で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は603.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初1/15は145.00でオープン後、米国休場となる中、円金利が低下していたことを背景に円売りが進み145円台後半まで上昇。1/16は、米FRB理事のウォーラーより「利下げを急ぐべきではない」との発言を受け米金利上昇が加速すると、ドル買いが進み147円台前半まで上昇した。1/17は、米12月小売売上高や米12月鉱工業生産が市場予想を上回る結果となったことを受けて、ドル買いが加速し148円半ばまで上昇。1/18は、米アトランタ連銀総裁のボスティブクより「米早期利下げに前向き」との発言が聞かれると、米金利上昇が一服し、148円を挟み揉み合いの推移。1/19は日12月CPIが前月対比で減速する結果となっていたことを受けて、円売りが優勢な展開となり一時148.80まで上昇した。その後は、鈴木財務相より「為替の動向を注意深く見守っていく」との発言が聞かれていたことから、介入への警戒感が再燃し、円が買い戻される展開となり148円近辺まで下落した。最終的には前週比2.2%ドル高円安の148.17で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.050-31.350
今週は上値の重い推移を見込む。半導体市場の先行き見通しが改善する中、貿易収支黒字の拡大が期待される他、台湾株への資金流入が進む場合、台湾ドル買いが進みやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.50-148.50
今週は上値の重い推移を見込む。23日の日銀金融政策決定会合での政策変更は予想されないものの、緩終終了への地ならしが見られた場合においては円買い圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

1/22 (MON)	台湾12月失業率、台湾12月輸出受注額
1/23 (TUE)	台湾12月鉱工業生産、日銀金融政策決定会合
1/24 (WED)	日12月貿易収支、米1月PMI景況感指数
1/25 (THU)	米第4四半期GDP
1/26 (FRI)	日12月サービスPPI、米12月PCE

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。